



米株 再上昇の条件と金利の行方

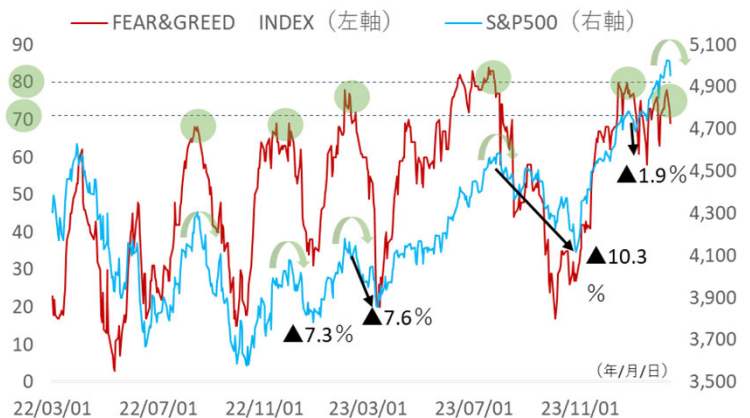
◆米国株 再上昇の条件は？

- 米国株再上昇の条件は、
 - ①実質金利ピークアウト（図表①）
 - ②望ましくは、FEAR&GREEDが「陰の極 閾値」の20割れに低下する中での、
 - ③調整幅▲7%程度示現（図表②）
- 調整幅▲7%は22年10月以降の上昇相場でFEAR&GREEDが「陽の極」70～80を付けた後の株価調整幅平均▲7%に起因（図表②）
- 株価の季節性を踏まえると、2月急上昇は一服、3月調整を経て仕切り直し、夏場に向け再上昇との示唆（図表③）
- グローバルマネーサプライは高止まり状態で引き続きリスク資産のサポート要因（図表④）

【図表1】実質金利 1.8%程度でピークアウト後低下 ⇒株価底入れサイン



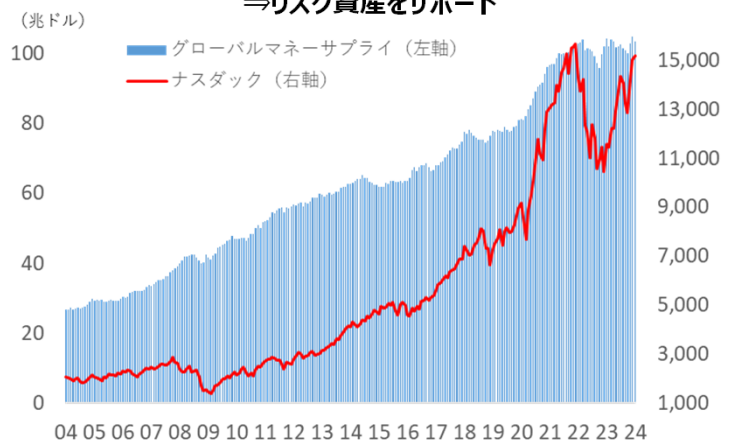
【図表2】FEAR&GREED INDEX「陽の極・株価調整」の閾値は70～80程度



【図表3】S&P500の季節性 過去20年間



【図表4】グローバルマネーサプライ※はまだ潤沢 ⇒リスク資産をサポート



※米、ユーロ圏、日本、韓国、カナダ、台湾、ブラジル、スイス、豪州、メキシコ、中国、ロシアのM2をドル換算し合計

（図表1、2、4）Bloombergのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

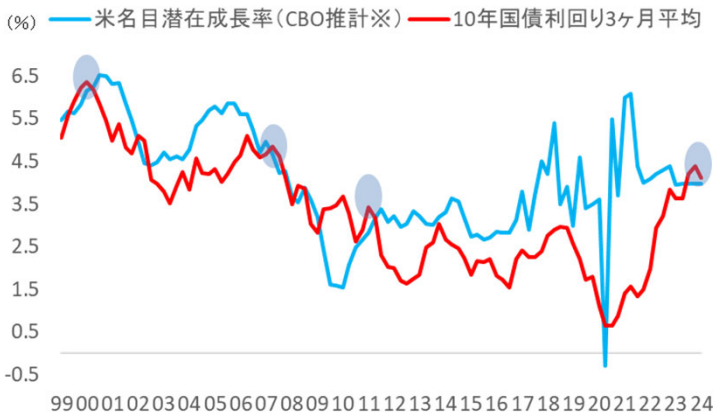
※本稿に記載された意見、推定、見通しは、本稿の日付時点における執筆者の分析・判断に基づいています。それらは必ずしもニッセイアセットマネジメントの意見を反映しているとは限らず、また予告なしに変更される場合があります。



◆金利上昇は想定内の動き

- 2/6の「松波塾」で「2月金利上昇、3月再低下」と予想したが、参照されたい。
「松波塾」Vol.18 2024.2.6号米金利 2月上昇 3月以降低下?
https://www.nam.co.jp/news/mpdf/240206_kh.pdf
- 目先、金利は上昇しやすいと見るが、10年金利と名目潜在成長率の関係を踏まえると上昇余地はさほど大きくない（図表⑤）
- 労働需給と10年金利の関係を見ても、金利上昇は限定的、大局観は金利低下方向との示唆（図表⑥）

【図表5】10年金利が一旦、米名目潜在成長率を越えると、その後金利は頭打ちへ



【図表6】労働需給ピークアウト⇒大局観では金利は低下へ



※米議会予算局
注：直近の10年金利3ヶ月平均は1月末実績値と2/13NY終値の平均で暫定的に計算

(図表5～6) Bloombergのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

※本稿に記載された意見、推定、見通しは、本稿の日付時点における執筆者の分析・判断に基づいています。それらは必ずしもニッセイアセットマネジメントの意見を反映しているとは限らず、また予告なしに変更される場合があります。



【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等： ニッセイアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者
関東財務局長（金商）第369号
加入協会： 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

コールセンター 0120-762-506
9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）
ホームページ <https://www.nam.co.jp/>